

外国人観光客誘客の基盤づくり

国際定期便・チャーター便、大型クルーズ船の積極的な誘致活動や海外でのPR等により、外国人観光客が大幅に増加！！

25,160人泊(2011年)→ 36,910人泊(2013年)→ 48,470人泊(2014年)→ **80,990人泊** (2015年1~11月)

外国人宿泊者数 8万人を突破、更なる誘客を推進します！

米子ソウル便



2015年搭乗者数は
過去最高を記録！

就航15周年

DBSクルーズフェリー



2009~利用者15万人

**大型クルーズ客船の
寄港ラッシュ**



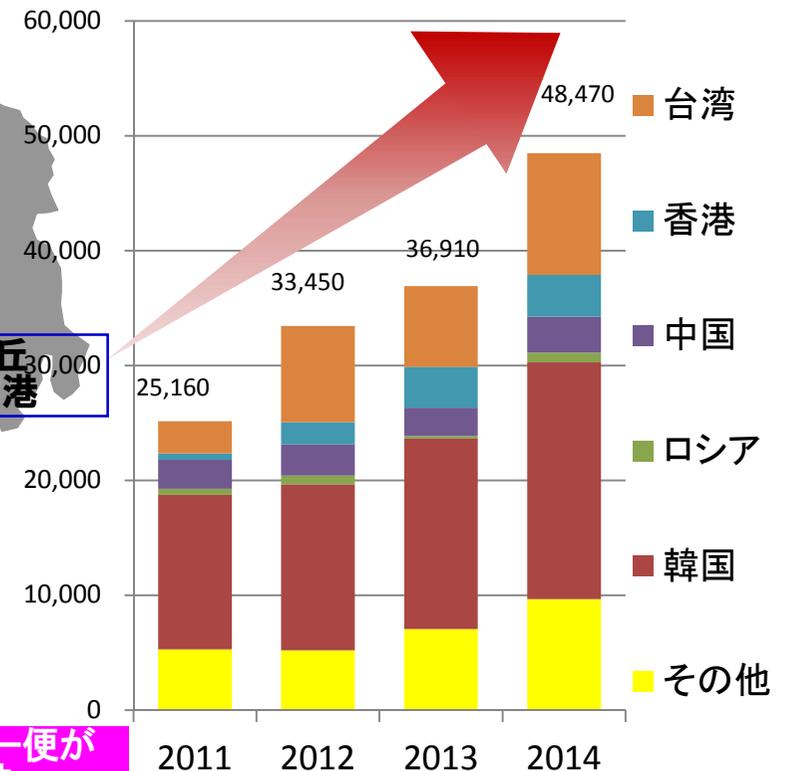
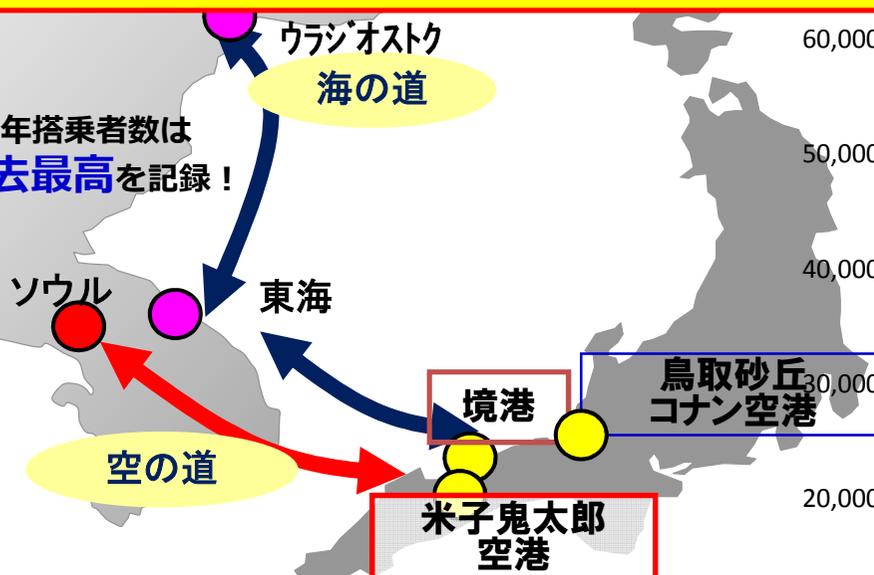
クァンタム・オブ・ザ・シーズ

2015年は寄港数23隻、
乗客数19千人と**過去最高**を達成！

米子香港便



2016年春 就航予定



**国際チャーター便が
続々就航**



チャーター便就航数等

2015年度 25便2,586人(予定)

2014年度 38便3,989人

空の玄関口の魅力向上（空の駅構想）

空港を拠点として、航空便利用者のみならず一般の観光客や地域住民の皆さんも気軽に訪れ、楽しんでいただけるようなエリア整備を行っています

整備の方向性

- ✓ 旅客ターミナル施設の機能拡充
- ✓ 空港と鳥取港(周辺観光地等)との連携強化
- ✓ 愛称(「砂丘コナン」「鬼太郎」)による魅力付け

＜県内空港国内便の利用者数＞（H26年度）

◎鳥取砂丘コナン空港：342,926人

（就航以来最高の利用者数 34万人台達成!）

◎米子鬼太郎空港：816,336人

（就航以来最高の利用者数 80万人台達成!）



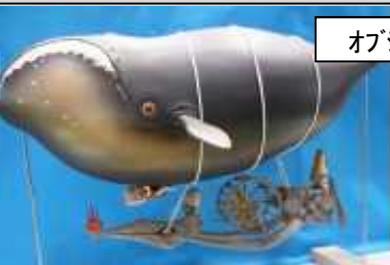
米子鬼太郎空港のイメージ

施設機能強化

- 二次交通等情報等発信機能の充実
- 多目的利用施設整備(外国人等受入環境整備)
- サイクルステーション設置(エコラック)
- 空港連絡ラッピングバスの運行(空港-米子駅間)
- 空港鬼太郎装飾リニューアル (H28年3月リニューアル完成披露会を予定)

オブジェリニューアル

空港連絡バス



二次交通等案内表示板



水木しげるロード リニューアル (H28整備着手)



鳥取砂丘コナン空港のイメージ

- 空港ビルと国際会館、空港と港(ツインポート)一体化
- 空港を拠点とする賑わい創出
 - 物販・飲食のトライアル出店(すなば珈琲等)
 - 空港コンシェルジュ、二次交通等情報発信機能強化
 - 装飾リニューアル など

機能連携 (連結道路整備等)



マリニピア賀露等

装飾・空港コンシェルジュ

山陰海岸ユネスコ世界ジオパークの創生

- 鳥取県を始めとする国内外各地域の活動実績等を踏まえ、ジオパークはH27年11月に世界遺産と同じユネスコの正式プログラム化として認められ、「**ユネスコジオパーク**」に格上げされました。
- ジオツーリズムの拠点整備、ロングトレイル、道府県応援団によるPRなど、新たな取組を展開していきます。

ジオパーク活動の拠点整備

県と町の施設をコンソーシアム化し体制を強化、再整備を実施

- ・ジオツーリズムの拠点としてシャワー、更衣室、トイレ等の整備を充実



- ・シーカヤックなど、ジオパークの自然体験利用者は年々増加中。

(単位:人)	H25	H26	H27
シーカヤック	1,945	2,291	3,721
シュノーケル	128	234	294

ジオパークを歩く旅のルート提案

鳥取砂丘、浦富海岸など魅力的なスポットを結ぶ
ロングトレイルのルートを設定



全国ロングトレイルフォーラムの誘致による国内外への発信

- ・欧米のトレイル関係者招致による国際的な発信



地域連携による発信

ユネスコ世界ジオパーク地域の関係道府県による共同PR

- ・ジオパークがユネスコ正式プログラム化されたことを契機に、世界ジオパーク地域のある道府県と連携しPR活動を展開。

～ ユネスコ世界ジオパーク記念
キャンペーン in東京 ～

<日時> 2月2日(火)

<場所> 東京国際フォーラム

<内容>

- ・9道府県の知事等が集結
- ・さかなクン(日本ユネスコ国内委員会広報大使)によるお祝いトーク など

手話言語条例の制定から広がる取組

平成25年
10月

手話を言語として正面から認めた全国初の条例
「鳥取県手話言語条例」制定！



条例の成立を喜び合う、ろう者の代表と平井知事(議会傍聴席にて)



音声文字変換システムを利用し
ろう者とコミュニケーションをとる
平井知事(県庁受付にて)



あいサポート運動の広がり

- 遠隔手話通訳サービス・電話リレーサービス
・モニター(ろう者)のタブレット型端末購入費を一部助成
⇒日常生活における**利便性向上**
- 音声文字変換システムの導入
⇒手話を使わない**難聴者・中途失聴者も便利に利用**
- 事業者等が主催する手話学習会の開催経費を助成
⇒平成25年11月から平成27年11月までに、手話学習会が**約100回**開催され、**約2,200人**が手話を学習
- 県民向けミニ手話講座を開催
⇒平成25年12月から平成27年10月までに、ミニ手話講座を**66回**開催し、**約1,000人**が受講

ろう者はもとより、
全ての障がいに
対する理解促進、
他者を思いやる心
を持つ共生社会の
実現を目指す！

・手話言語条例の制定と相まって、鳥取県から始まったあいサポート運動がさらに広まった。

◆平成28年1月19日現在、中国4県を初めとする
全国 **6県、2市、5町**と**連携協定**を締結

・遠隔手話通訳サービスのタブレットを設置しているJR鳥取駅等で障がいに関する勉強会を行い、バリアフリー化に取り組んでいる。

◆平成27年12月末現在、
あいサポーター数：**279,520人**
あいサポーター研修実施回数：**2,866回**
あいサポート企業・団体認定数

: **983企業・団体** 13

少人数学級の推進

- 本県では、市町村の理解と協力により、平成14年度以降、小学校1・2年、中学校1年で独自の少人数学級の取組を実施 ⇒ **小1プロブレム、中1ギャップの解消など、学習面や生活面で成果**
- 近年の人間関係を築く力の不足、学ぶ意欲の低下、特別な支援を必要とする児童生徒への対応などが必要

「子育て環境日本一」実現のため未来へ投資します！

【平成23年度まで】

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
30	30	40	40	40	40	33	40	40

【平成24年度より】

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
30	30	35	35	35	35	33	35	35

【国標準】小学校1年 35人以下学級 小学2～6年及び中学1～3年 40人以下学級

平成24年度より 協力金方式により少人数学級を拡充
 小学校3～6年、中学校2・3年⇒35人以下学級
 小学校1・2年の30人以下学級、中学校1年の33人以下学級
 さらに市町村の判断により、少人数学級を進めることも可能

【成果】

○学力の定着

- ・発表時間の確保及び発表機会の増加
 - ・アクティブ・ラーニングの展開
- ⇒H27全国学力テストで各教科とも少人数学級実施校※は全国平均を上回った

※ 県独自負担により少人数学級が実現した学校

- 一人一人の児童生徒へのきめ細かな対応
- 不登校児童生徒の減少に効果

【少人数学級を実施している学校・県・全国との比較】 (H27年度全国学力テスト)

